

いかに幸いなことか、背きを赦され、罪を覆っていただいた者は！

(詩編 32:1)

How blessed are those whose offence is forgiven, whose sin blotted out. (NJB)
(Oh, what joy for those whose disobedience is forgiven, whose sin is put out of sight!) (NLT)

この短いひと言は、実に深い意味を持っている。それはこの罪の赦しということこそ、キリスト教の中心であり、またそのためにイエスは十字架にかかって死なれた。イエスが地上に来られたのは、そのためであった。神の愛、正義、真実といったことはすべてこの十字架の死にこめられている。

聖書ははやくからこの人間にとっての根本問題を一貫して示し続けてきた。そしてその赦しが無かったら、人間の魂は安らぎを得ることができず、幸いを感じることもできないこと、からだの健康も言うまでもなく重要なことであり、経済的な安定も必要なことであるが、それらがどんなにあっても、魂の深い平安は得ることができない。

しかし、罪赦され、それによって神とともにあることができれば、貧しくとも、病気であってもなお、魂の平安を感じてきた人は数知れずいる。

この人間にとっての根本問題をこの詩編で扱っている。併記した英語訳に見られるように、これは何という喜びなのか！という感嘆符の付けられる内容である。

心のなかの不安や不満、そして怒りや憎しみ、憂うつといったさまざまの感情は、しばしば私たちの病気や周囲の人間関係などの状況によって引き起こされるけれども、実は私たちの心が深く神と結びついていないことに根本的な原因があると言える。

罪が赦され、神との深い交わりが与えられ、聖なる霊が注がれるときには、さまざまの外側の状況をも乗り越える力が与えられるし、私たちの心に天よりの光が注がれ、天の国のさまざまの祝福が注がれるであろう。

中風で動けない人を、その友人たちがイエスのいやしを信じてイエスのもとに運んできた。あらゆる妨げがあっても主イエスのもとに運ばばなおしていただけると信じた人たちのその信仰をみて、中風の人に対して「あなたの罪は赦された」と言われた。からだの病気以上に罪からの赦しこそが人間にとって最大の問題であるからであった。

しかし、すでに神を信じ、キリストを救い主として受けいれている者であっても、ときには私たちの心に影が射してくることがある。そのようなときでも、罪赦されたものは、主とのつながりの基となるものを与えられているのであるから、忍耐しつつ主に祈り、求めていくときには、主の約束の通り、時至れば必ず主が私たちの心に新たな力を注いでくださると信じて歩み続けることができる。

野草と樹木たち



アセビ（馬酔木）

徳島県海部郡海陽町 2009.3.10

この樹木の花は、日本人に最も古くから、愛し続けられている花の一つだといわれています。これは園芸用として花壇や鉢植えとして広く用いられているのでよく知られています。しかし、野生の花に出会った人はそれほど多くないと思われます。この写真は徳島市から50kmほど南の山中に自生していたものです。海陽町での聖書の学びから帰途、車中からいろいろな木々に混じって咲いているのが見えたのでそこまで登って撮影したものです。

アセビはツツジの仲間ですが、道路によく植えられているヒラドツツジやヤマツツジ、ミツバツツジなどのように大きな花を開くのではなく、釣り鐘状の花を咲かせます。このような花は、ドウダンツツジ、ネジキなども同様です。

この花は、古くから愛好され、万葉集にも10首ほどあります。そのうちの一つをあげておきます。

礒影(いそかげ)の、見ゆる池水、照るまでに、咲ける馬酔木の、散らまく惜しも(第20巻 4513)
(岩影が映っている池の水が照り輝くほどに咲いている馬酔木が散ってしまうのは惜しいことだ。) *「礒」とは、岩のこと。

アセビの花がなぜ、古来から日本人に愛されたのか、いろいろ理由はあると思われませんが、まだ寒い3月ころに咲き始めるために、寒さの中で心を慰める花となったこと、緑や冬枯れのような木々のなかで、命に満ちた美しい花をたくさん咲かせることで、見る者に新たな励ましを与えるところがあったと思われま。現代の私たちにとっても、このような野生の花を山にて見出すとき心惹かれるものがあります。上の写真で大写しになった一つ一つの花を見るとき、それらの一つ一つの花が心を込めて創造されたのを感じ、このような花を創造された神の御手とそのお心に引き寄せられる思いがします。(写真、文ともに T.YOSHIMURA)